

第 336 回松本歯科大学大学院セミナー

日 時: 2015 年 12 月 10 日(木) 18 時 00 分~19 時 30 分

場 所: 実習館 2 階 総合歯科医学研究所セミナールーム

演 者: 齋藤 一郎 氏(鶴見大学歯学部病理学講座・教授)

タイトル: **ドライマウスから考える全身の抗加齢医学**

近年、「健康と若さを保ちながら年を重ねることを可能にする医学」として抗加齢(アンチエイジング)医学が確立されつつあり、これは単に寿命を延ばすのではなく、老化による心身の衰えを防ぎ、生活の質(QOL)を高く保ちながら、社会的な生産性を維持する事を目的とした医療である。抗加齢医学に基づく健康増進のための指導や療法は、厚生労働省が掲げる「健康日本21」を実現させるための新たな予防法としての具体的な取り組みでもあり、このことから歯科領域においても学術的な検証結果(EBM)に基づいた実践が望まれている。

この抗加齢医学における歯科医学の役割は大きく、口腔が全身の健康に深く関与していることは周知である。しかしながら、口腔機能の維持や老化に伴う唾液の減少(ドライマウス)などの対応は普及しておらず、演者は現在 4200 名の歯科医師や歯科医療従事者で組織されているドライマウス研究会を主宰し活動している。このような唾液分泌への対応もアンチエイジング医学の実践に欠くことのできないテーマの一つである。

全身の均質な老化を目標とする抗加齢医学では歯科領域だけでなく医科との連携が不可欠であることから、演者は 2005 年より、日本抗加齢医学会の分科会として抗加齢歯科医学研究会を発足し現在 2100 名の会員と活動を行っており、本講演では抗加齢医学の現状について概説する。

<略歴>

1954 年東京生まれ。松本歯科大学卒業後、日本大学歯学部、米国スクリプス研究所、東京医科歯科大学難治疾患研究所助教授、徳島大学歯学部助教授を経て 2002 年より現職。2008 年より鶴見大学歯学部附属病院病院長(4 年間)。

口腔乾燥症(ドライマウス)を呈するシェーグレン症候群の研究に長年従事し、現在会員数約 4200 名のドライマウス研究会を主宰するとともに、日本抗加齢医学会(会員数 8000 名)の副理事長を務める。2003 年に鶴見大学歯学部附属病院にドライマウス外来を、2005 年にアンチエイジング外来を開設し、新たな歯科医療の展開を実践している。

<役職>

厚生労働省難治性疾患克服研究事業分担研究者  
日本抗加齢医学会 副理事長  
日本病理学会 評議員  
日本口腔検査学会 理事  
日本シェーグレン症候群学会 理事  
ドライマウス研究会 代表

<受賞歴>

2002 年 歯科基礎医学会 ライオン学術賞  
2003 年 日本病理学会 学術研究賞(A演説)  
2011 年 日本シェーグレン症候群学会賞